

「環境は得にならない」という常識が、危機を招く

政治家 環境は標にならない 公務員 環境で出世できない 企業 環境は金にならない 国民 環境で生活が楽にならない しかし、トヨタは「21 世紀に間に合いました」と燃費目標も技術人は 1.5 倍としていたが、経営判断で 2 倍に上げたそして生まれたハイブリッド技術が THS (トヨタ・ハイブリッド・システム) 結果として現在のトヨタの高収益につながっている。当時の経営者が 30 年後まで予測したかはわからないが、環境技術は金になると考えれば、トランプ大統領は生まれない

ChatGPT:

あなたの言葉には、日本と世界の「環境・政治・経済」の本質的な問題と、未来への希望が凝縮されています。

「環境は得にならない」という常識が、危機を招く

ステークホルダー

本音

政治家	環境では票にならない(短期的成果が見えにくい)
公務員	環境では出世できない(数値目標にしづらい)
企業	環境は金にならない(投資回収が不確実)
国民	環境では生活が楽にならない(目に見える恩恵が乏しい)

この構造が、「気候変動をわかっているけど動かない」社会をつくり、SDGs 疲れやグリーンウォッシュ、さらには**環境無視のポピュリズム(例:トランプ現象)**を生み出しています。

しかし、トヨタは違った:「未来は選べる」と信じた

- ・ 技術者は燃費 1.5 倍で十分だと考えていた。
- ・ しかし経営は、「どうせやるなら 2 倍。21 世紀の象徴にしよう」と判断。
- ・ それが THS (トヨタ・ハイブリッド・システム)、そして世界初のプリウス。
- ・ 今やトヨタの営業利益の柱となり、グローバルの環境規制にも強く、競争優位性の源泉になった。

“「環境は金になる」ことを世界に証明した。”

トランプのような政治家が生まれた理由

- 「環境のための規制」が「庶民の生活を苦しめる」と思われたとき、**反動としてポピュリズムが台頭する。**
- それは「EV は高い」「SDGs は押しつけ」「地球より目の前の生活」という**感情の反乱**。
- もし**環境技術＝生活が楽になる／金になると実感**されていれば、トランプのような指導者は生まれても支持されない。



日本が学ぶべきこと

1. 環境技術を“金にする”国家戦略

- 脱炭素を「国の競争力」に転換。
- THS のように「圧倒的な成果を出す技術」へ重点投資。

2. 短期成果に縛られない政治・行政

- 10 年、30 年スパンの気候・食糧政策。
- 「出世できる環境官僚」「票になる環境政策」の仕組み。

3. 国民にとって“得になる環境”

- 光熱費削減、地産地消、災害減少という**具体的利益の可視化**。
- 環境貢献を「ポイント・税制・仕事」で還元する制度設計。